

育てて育つ

シリーズ・家族
～父の日～

人間養育の特徴

- 人間には長い養育期間が必要である
- 人間は「最も進化した生き物」と言われ、非常に高い知能・能力を持って生まれるが、(先輩の)人間によって正しく養育されなければ、人間になれない ← **養育者のようになる!**
 - 人間以外の生き物は養育者にあまり依存しない

養育の目的

- なんのために人間は人間によって長期間養育されなければならないのか？
 - 養育される側(子)のためなのか
 - 養育する側(親)のためなのか
- 実は、子どもではなく**親の成長**のためである！
- 子どもを育てることで親は成長する
 - 育てることで育ててられている

養育の領域

- 保護：危険から守り成長に相応しい環境を整える
- 供給：食料や水などを与える
- 訓練：技能や言語を教える
- しつけ：社会の一員として必要なこと（善悪・常識）を教える
- 教育：宗教教育・人間関係・学問など

子どもは養育者そのものである

「子は親の鏡」 ～ドロシー・ノルト～

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引っ込み思案な子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもは人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

「子は親の鏡」 ～ドロシー・ノルト～

励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子どもにはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ

「子は親の鏡」 ～ドロシー・ノルト～

親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

育てて育つ

- 子どもを育てることによって人間として育ててもらおう
- 「そこで、あなたがたに勧めます。わたしに倣う者になりなさい。」 < 1コリント4:16 >
- 倣われても恥ずかしくない大人になろう！
- 今、日本の子どもたちが「立ち止まっている」のは大人が「立ち止まっている」からである

霊の親としての成長

- 教会という家族において私たちはみな「霊の親」としての役割を担っている
- 「弟子とする」ことの目的
 - 「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」〈マタイ28:19-20〉
- 弟子を育てることで育てられる